Rotary
Region 1, 2 & 3
コーディネーター NEWS
2026年2月号　No.1
発行：Region 1, 2 & 3
RMC, RPIC, RRFC, E/MGA, EPNC
行動計画推進リーダー
国際大会推進チーム

「会員増強雑感」

第1地域　ロータリー会員増強コーディネーター（RMC）田中　久夫（高崎 RC）

会員増強・維持には1年のうちに不安な波が2回くる。そうだ、1度目は 12 月末、2度目は6月末だ。この原稿は1月初めに書いている。皆さんの地区の 12 月末の様子がどうなっているのかが心配だ。この波を上手に乗り切り後半戦を迎えられれば気分も上がって、さらに増強のヤル気が起きるだろう。反対に、波に揉まれて原点（年度初めの会員数）を下回ったりすれば気分はダダ下がり、後半戦は早くも消化試合の様相に陥っていく。

少し冷静になって考えると、①会員増強は「入会者＞退会者」であり、②会員維持は「入会者＝退会者」、③会員減少は「入会者＜退会者」である。多くの地区では、入会者数は毎年度ほぼ同数であるという傾向がある（地区の会員数の約 7～10％という統計がある）。これは、地区の会員が増強に必要性を感じて、毎年度必死に新会員を徴募しているからだ。一方、退会者が出そうだというときには余り関心を寄せていない。退会者を少なく出来れば①の結果が得られる、当たり前のことだ。

退会者にその理由を聞いた RI のアンケートがある。第1位は「経済的・時間の負担」約 30％、第2位は「クラブの環境と文化に馴染めなかった」約 23％、第3位は「期待に沿わなかった」約 19％だ。退会者の 70％以上がこの3つの理由に絞られる。だとすれば、この原因解消に努めよう！というのが我々ロータリー会員の使命となる。

退会理由第1位の解消方法は、「クラブの柔軟性」の活用だ。例会の形式、回数と出席の取り扱い、会員の種類と会費の金額の区別などを考えることだ。第2位の解消方法は、クラブ運営の根幹に係わる問題だ。クラブには、すべての会員が自分のペースで自分らしく参加できているか、会員の誰かがガマンを強いられていないか、皆がいまのクラブに満足しているか、というわゆる「クラブの良質な居心地」「クラブへの帰属意識（Belonging）」があるかどうかが分かれ目になる。これを解消するには、クラブ・リーダーの強い意思とその重要性を理解した会員たちの協力が必要だ。ここに「会員増強・維持の絶対法則」がある。

それは、「温かい配慮（会員同士の寛容な気持ち）」×「心地よさ（皆からの認知）」＝「会員増強・維持＋帰属意識（Belonging）」の方程式である。

これを理解できない、いやこの原因解消の努力に足を引っ張る輩が居たら、そういう人には、女性初の RI 会長だった J.ジョーンズ氏の言った「雑草に水はやらなくていい。水は花を咲かせる植物にやるべきだ。雑草は抜くことだ」を実行することだ。

第3位は、ロータリーそのものへの批判である。ロータリーを理解できない人まで取り込むことはないさ、とつぶやくしかない。

紙幅の限界がきた。残りは、拙著『そうだったのか?!　ロータリークラブ!!』（幻冬舎）に譲ります。

Rotary Region 1, 2 & 3
コーディネーター NEWS
2026年2月号　No.2
発行：Region 1, 2 & 3
RMC, RPIC, RRFC, E/MGA, EPNC
行動計画推進リーダー
国際大会推進チーム

第 2 地域　ロータリー財団地域コーディネーター補佐　大谷　新一郎（相模原南 RC）

第2地域ロータリー財団地域コーディネーター補佐の大谷新一郎（2780地区・相模原南RC）です。補佐として3年目になり大変充実した財団地域コーディネーターを経験させていただき、益々ロータリー財団の重要性を認識しております。

さて、昨年の11月17日にロータリー財団地域セミナーが34地区の地区財団委員長をはじめ200名を超える多数の会員の参加で開催されました。
セミナーはフランチェスコ・アレッツォRI会長のあいさつの後、TRF管理委員長ホルガー・クナーク氏よりロータリー財団の現状報告とグローバル補助金や、大規模プログラム補助金による奉仕活動をマイクを片手に壇上から、私ども参加者に語り掛けるようにとても分かりやすく熱く講演されました。財団への寄付がいかに世界の平和・ポリオ根絶、そしてこれからの明るい未来を担う若い人たちへの教育に寄与しているかを講演されました。
その後第5セッションまで「会員増強につながったロータリー財団活動」のパネルディスカッション、そして伊藤RRFCによる「ロータリー財団の戦略行動計画」と題し34地区の寄付状況を数字で達成率を示し、6月までの今季目標に向かって更なる努力を参加者皆様に訴えられた。

さらにロータリー財団奨学生で2025年3月まで駒澤大学長の各務洋子氏やロータリー平和フェロー大豆本由紀氏による講演が行われた。
各務先生の「36年の時を超えて＜恩返しの喜び＞」と題しての講演は先生が30歳の時東京四谷ロータリークラブの財団奨学生として3歳の息子さんと2人で米国アリゾナ州立大学に留学され国際経営大学院修士課程での勉学でMIM（国際経営修士）を取得された経験を話されました。講演の副題として「国際ロータリー財団奨学生として得た人生の宝」を掲げられ、今の自分があるのはロータリークラブのおかげと、時々留学時の思いがよぎったのか涙を浮かべて話されていて、参加された会員の皆様も感動したのではないかと思いました。
10：00～17：30のぎっしり中身の濃い充実したセミナーでした。

第３地域 台北国際大会推進チーム 大橋 秀典（東大阪東RC）

2026年ロータリー国際大会に向けて、RI国際大会推進コーディネーターの出村知佳子さん（札幌北RC）を中心に準備を進めています。
我々は日本から10,000人を目標としていますが、現在4,348名の登録を頂いています。あと、5,652名です。
日本は台湾に次いで世界第二位です。
10,000人を目指して皆様のご協力をよろしくお願いします。

・主なプログラム
6月14日（日） 午前7時～ 圓山大飯店12階にて親善朝食会。
開会式 （午前・午後の2回）台北ドーム
6月15日・16日 全体会議（午前）
6月17日 閉会式（午後）

・国際大会では国際ロータリーが如何に国際的な組織であるかを再認識出来て、世界中のロータリー会員と友情を育む場所でもあります。
どうか、ご家族、クラブの仲間、地区の仲間にも声を掛けて、皆で国際大会を楽しみましょう！

・日本チーム
国際大会推進コーディネーター 出村 知佳子（2510地区・札幌北RC）

- 第一地域 岡村 睦美（2770地区・川口RC）
- 第二地域 吉川 公章（2760地区・名古屋南RC）
- 第三地域 大橋 秀典（2660地区・東大阪東RC）

以上のメンバーで美味しい、楽しい、優しい、オモロイ、台北国際大会を目指しますので、皆様台北でお目にかかりましょう！